

## 会 議 録

会議名称	令和4年度第2回加古川市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和4年10月7日（金）午後1時55分から午後4時55分まで
開催場所	加古川市役所新館10階 大会議室
出席者	<p>&lt;委員&gt;</p> <p>藤原健史会長、中井玲子副会長、花田眞理子委員（WEB）、岡本立身委員、岡田弘子委員、加茂保明委員、金子博子委員、津田貞裕委員、丸山玲子委員、加藤朋子委員</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>竹中環境部長、阿部環境部事業担当部長、新濱環境部次長、藤本環境政策課副課長、小山環境政策課ごみ減量推進担当副課長、神田環境政策課環境政策係書記、松本環境政策課環境政策係書記、瀧石環境保全課長、栗栖環境保全課副課長、西澤環境第1課長、菅野環境第1課副課長、桑山環境第2課長、岸本環境第2課副課長、松本環境第2課尾上処理工場担当副課長、小山環境第2課浄化槽整備推進担当係長、増田環境第2課浄化槽整備推進担当、生田環境施設課長、岡田環境施設課副課長、岩田下水道課副課長</p>
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 事</p> <p style="padding-left: 40px;">第4次 一般廃棄物処理基本計画の目標案・施策案等について</p>
配付資料	<p><b>【ごみ】</b></p> <p>資料① ごみ・資源物の排出量予測について</p> <p>資料② 第4次計画の基本理念について</p> <p>資料③ 第4次計画の基本方針について</p> <p>資料④ 第4次計画の重点施策について</p> <p>資料⑤ 第4次計画の目標設定について</p> <p><b>【生活排水】</b></p> <p>資料① 生活排水処理形態別人口及びし尿等発生量の予測について</p> <p>資料② 生活排水処理施策案（まとめ）</p> <p>資料③ 生活排水処理基本計画における小河川の調査結果</p>
傍聴者の数	2人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
	<p>1 開 会 会長あいさつ</p> <p>2 議 事 第4次 一般廃棄物処理基本計画の目標案・施策案等について (1) ごみについて</p>
(委 員)	<p>&lt;資料①ごみ・資源物の排出量予測について、事務局から説明&gt; 家庭ごみの排出量について、減少していると説明があったが、コロナの影響もあり家で過ごす時間は増加していると思う。そうなると、ごみも増えそうだが、ごみの排出量は減少しているのか。</p>
(事務局)	<p>他市町の状況を見ていると増加しているところもあるが、加古川市においては、減少している。 その要因としては、令和3年度の指定ごみ袋制度の導入が考えられる。 また、令和2年のゴールデンウィーク辺りはステイホームが推奨され、家にいる時間も長く、その際に多くの片付けごみが出されたのではないかと考えている。このタイミングで多くのごみの処分が出来ているので、その後は排出量が減少していると推測している。</p>
(委 員)	<p>テイクアウトなども増加し、自宅での消費が増えたのにもかかわらず、ごみの排出量が減った理由がわからない。</p>
(事務局)	<p>在宅で過ごす時間が増えたことで、食べ残しが減ったという話も聞いている。ごみの排出量が減少した特定の原因はつかめていないが、様々な要因が重なって減少していると考えている。</p>
(委 員)	<p>今後、コロナ禍が継続していくとは限らないので、ごみの排出量の予測は継続してもらいたい。</p>
(委 員)	<p>コロナが落ちついた後に、ごみの排出量の予測値等を修正する予定はあるか。</p>
(事務局)	<p>計画自体を中間の5年で見直す予定にしている。その際に予測値も修正する。</p>
(委 員)	<p>質問が2点ある。</p>

	<p>1点目は、相関性が高いものの条件の意味を教えてください。</p> <p>2点目は、燃やすごみ等のごみの分別方法は10年以内に変更の予定はないのか。</p>
(事務局)	<p>資料①(参考)を参照して欲しい。5つの方法で計算し、最も想定に近いものを採用している。</p> <p>分別については、いまのところ変更の予定はない。「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」も施行されているので、今後検討を重ねていく。5年後には中間見直しをするが、直近での変更の予定はない。</p>
(委員)	<p>10年間の数値の予測については、5年で見直すとのことだが、コロナ禍の数値をデータの根拠にしているのでは不安もある。あくまで目標を立てるため、基本方針等を検討するための参考資料と捉えている。</p> <p>集団回収について、紙の量は減ると思うが、衣類も減るのか。</p>
(事務局)	<p>紙については、生産量も一般的に減少傾向にある。また、集団回収では実施する団体や活動回数の減少もあることから、紙類の減少を見込んでいる。衣類についても集団回収においては、減ると考えている。</p>
(委員)	<p>集団回収の活動そのものが減ることを反映していると考えていいか。</p>
(事務局)	<p>活動減が減る要因と予測している。</p>
(委員)	<p>かん類やペットボトル、集団回収など10年先の予測数値を出すに当たり、5年間ではデータが少ないのではないかと。データが多いほど、正確な数値の予測につながると考える。中間での見直しが重要になるのではないかと。</p> <p>また、エコクリーンピアはりまに焼却施設が移ったことで、中間処理後の廃棄物量の把握が困難であるとあったが、高砂市と協議し、数値を把握できるようにしないといけないのではないかと。</p>
(事務局)	<p>数値予測については、基本的には過去5年分で予測している。しかしコロナの影響などで大きく動いているイレギュラーな年度はあえて除くようにして数値を予測している。また、新規施策を導入した年度は差が出ているので、より適切な数値に近づけるために、データの期間に差異を持たせている。</p> <p>このようなこともあり、中間の5年後に見直していく。</p> <p>中間処理量については、処理を開始したばかりで根拠となるデータが少ないため、5年後の見直しの際に数値を検討する。もちろん、高砂市には数値の提供を求めていく。</p>

<p>(委 員)</p>	<p>高砂市の焼却処理施設では二市二町のごみを処理しているが、中間処理後の加古川市のみのデータはあるのか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>搬入時に収集車ごとの搬入量を計測し、そこから二市二町それぞれの搬入量を計算、中間処理後の量はその搬入量から按分し加古川市の量としている。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>5年ではデータの数が少なく10年後の数値を予測することは困難であるという意見がでたが、中間の見直しの際に数値を検討する必要がある。</p> <p>また、コロナになった時のごみの減り方を見るために記録しておくことが重要。今後も同様の感染症や災害時の参考になると考える。</p>
<p>&lt;資料②第4次計画の基本理念について、事務局から説明&gt;</p>	
<p>(委 員)</p>	<p>案には「循環」が入っているが、言葉の意味が分からないと理解が難しい。循環という意味が伝わりやすいものは、人・もの・自然から始まるような優しい言葉が入っているものだと思う。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>すべての案に「循環」という言葉使われているが、具体的にイメージがしづらい。「循環」を優しい表現にできないか。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>「やさしさでつながる」という言葉が良いと思う。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>3Rという言葉が浸透していないと思うので、「次世代につなぐ3R」は大切だと思う。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>「将来にわたり持続可能な発展を続けていく」ということが伝わるようにしないといけない。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>3Rと2Rの違いは何か。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>3Rのうち、2R（リデュース、リユース）優先を基本方針で謳いたい。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>2Rにすると言葉の説明が必要になる。3Rのほうが世間一般に定着しているのではないか。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>国も2Rを推奨している。3Rでいいのかとも思うが、10年間というスパ</p>

	<p>ンを考えると、3Rより2Rかなとも思う。</p> <p>海外ではごみを出さないことも実践されている。例えば、海洋ごみからスニーカーを作るといったアップサイクルということも行われている。</p> <p>3つ目の案の「伝わる」を「つなげる」にしてはどうか。</p>
(委員)	「つなげる」、「つながる」どちらの表現が良いか。
(委員)	どちらも良いと思うが、「つなげる」のほうが能動的で良いのでは。
(委員)	どのようなことをするかを明確にすると言葉にしやすい。基本方針や重点施策について方向性が決まり次第意見する。
(委員)	市民の目につくようなキーワードが必要になると思うので、それを踏まえて案を2個程度に絞ってもらいたい。
	<資料③ 第4次計画の基本方針について、事務局から説明>
(委員)	②は「脱炭素」と「ゼロカーボン」と同じ言葉が並んでいるが、続ける意味はあるのか。
(事務局)	検討する。
(委員)	④の中で「適正」という言葉が使われているが、国も含め適正という言葉が乱用している。適正といいながら本当に適正にできているのかと疑問に思ってしまう。適正という言葉を何かの法律や根拠のあるものに変えるべきではないか。
(委員)	「適正」を「適切」にするのはどうか。「適正」については、廃棄物処理法に「焼却後、最後に残った灰などを適正に処理する」といった表現があったと思う。
(委員)	「法律に則って」を加えると、何をしないといけないかイメージし易いのではないか。
	また、②でプラスチックを減らすことがCO2削減につながるとあるが、これだとプラスチックごみを減らすだけでいいと勘違いする人もいるのではないか。

<p>(委 員)</p>	<p>市民に考えてもらうような発信とあるが、これだと市民にゆだねる、市民に丸投げともとれる。行政と市民とが一緒になって考えていくという表現のほうがいいのではないか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>環境に関することは様々な側面、メリット・デメリットがある。例えば、ペットボトルは水平リサイクルに取り組んでおり「分別をしてください」と呼び掛けている。しかし、リサイクルにもエネルギーが必要であり、マイボトル運動としてそもそもペットボトルを控えましょうという呼びかけもある。だが、マイボトルを忘れた時など、熱中症のリスクといった側面もある。そういったことを考えて行動して欲しいというようなことを書きたい。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>言葉だけでは啓発とはいえない。理解できてこそ意味があるので、わかりやすく具体的に記載がある方がいい。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>エシカルなライフスタイルとあるが市民は理解できるのか。もう少しわかりやすい表現はないのか。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>「エシカルライフの魅力」という言葉が気になる。日本語に訳すと「倫理的な魅力」になる。倫理的であれとも解釈でき、圧力をかけているように感じる。魅力と表現するなら、どう魅力的なのかを明確に記載が必要ではないか。 また、マイボトルを持ち歩こうとあるが、食品衛生を教えている立場からするとどうなのかとも思う。安全面にも配慮することの記載が必要になってくると思う。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>私たちはエシカルを分かりやすいように「しっかり考えて笑顔につなげる」「誰もが笑顔になる・笑顔につなげる」と説明している。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>エシカルの表現については検討する必要がある。</p>
<p>&lt;資料④ 第4次計画の重点施策について、事務局から説明&gt;</p>	
<p>(委 員)</p>	<p>ジモティーと連携協定とあるが、実際にどういうことをしているのか。ジモティーで取引しようとしたが、利用方法が複雑であった。また、取引も成立しなかった。連携協定と言うからには、引き取りまでするくらい必要では。 またドギーバッグについても、実際に持ち帰りを店舗に伝えると対応できないと言われることもある。衛生的な問題もあるので、あまり全面的に押し出さない方がいいのではないか。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>ジモティーの説明をすると、不用品を個人間で取引するサイトを運営している事業者になる。また、そのサイトに投稿しても必ず成立するものではなく、そうなった場合も引取りは行わない。連携協定については、今現在はサイトの紹介にとどまっている。</p> <p>ドギーバッグについては食品によって向き不向きがあるが、いずれにせよ自己責任が求められるものであり、慎重に進めていく必要があることは認識している。</p>
<p>(委員)</p>	<p>連携協定を結ぶメリットは何か。紹介だけでは連携協定を結ぶメリットは少ないのではないかと。計画に「連携協定を結んでいる～」と書く必要はないのでは。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>記述については、一業者のみを取り上げての紹介はしにくいのでこのような書きぶりにした。連携協定の内容的には段階があるが、現時点では紹介にとどまっている。</p>
<p>(委員)</p>	<p>「ば・と・ん」という仕組みもあると聞いた。他にも制服の譲渡などはしていないか。また、エコクリーンピアはりまでは、幼児用品の譲渡なども行っていると聞いたが、次年度で加古川市民は借りることができないとも聞いているが。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>「ば・と・ん」については、投稿件数、成立件数ともに低迷したことから廃刊し、ジモティーを紹介するようにしている。</p> <p>制服は学校独自のものでもあるので、卒業する際に回収してバザーなどで販売や譲渡を行っている学校もあると聞いている。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>エコクリーンピアはりまのリサイクル事業は2市2町共同で行うので、加古川市民だけがサービスを受けることができないということはない。</p>
<p>(委員)</p>	<p>重点施策についてだが、これは加古川市が取り組むということで間違いないか。今の表現だと、市が何をやるのかがわかりにくい。</p> <p>大型ごみを修理し、引取り手を広報誌などで周知している自治体もあると聞いている。事業者が取り組むことを重点施策といえるのか。</p> <p>ドギーバッグについて、シェアバッグという名称を使っている自治体もある。市民が取り組みやすい名前を考える必要あるのではないかと。</p> <p>また、ライフスタイルの転換について、やらないとだめといった言い方でなく、知らず知らずのうちに環境負荷の軽減につながるような「ナッジ」のような仕組みを提示してはどうか。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>粗大ごみを修理し提供するという仕組みは、現在エコクリーンピアはりまで実施を検討している。</p> <p>また、市や事業者、市民が取り組むべきことが明確になっていないとあったが、それについては内部でも検討している。リユースやリデュースは啓発することで意識改革していくことが重要になる。その中で行政ができることを検討していく必要があると認識している。</p> <p>&lt;資料⑤ 第4次計画の目標設定について、事務局から説明&gt;</p>
<p>(委員)</p>	<p>重点施策では「ジモティー等」とあるが、⑥モニタリングの記載が「ジモティー」となっている。モニタリングの対象はジモティーに絞り込むということか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>対象は数値の提供を受けているジモティーのみの予定である。数値提供も連携協定のメリットのひとつである。</p>
<p>(委員)</p>	<p>最後にやらなければならない3点を伝えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① リデュースが大切だけれど、出てしまったものは、リユース・リサイクルする。</li> <li>② 資源化できる物の燃えるごみへの混入率を下げる。</li> <li>③ 事業系ごみについては、コスト削減につながる事例紹介などを情報提供する。</li> </ul>
<p>(委員)</p>	<p>令和14年度において全国平均の目標値に到達できるようにするという目標設定についてはどうか。</p>
<p>(委員)</p>	<p>国や県の目標値は令和7年度が最終ということでもいいか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>国や県で公表している一番近い将来の目標値が令和7年度なのでそれを参考にしている。</p> <p>&lt;(2)生活排水 資料①～③について、事務局から説明&gt;</p>
<p>(委員)</p>	<p>時間の都合上、質問は割愛する。質問がある場合は、各自で後日行ってください。連絡をどこにすればいいか。</p>



<p>(事務局)</p>	<p>環境政策課に連絡をいただければ、質問に応じて、担当部署に連絡を繋ぐ。</p> <p>&lt; 3 その他として、今後のスケジュールを説明 &gt;</p> <p>4 閉 会</p>
--------------	---